教草女房形氣上戈

初編

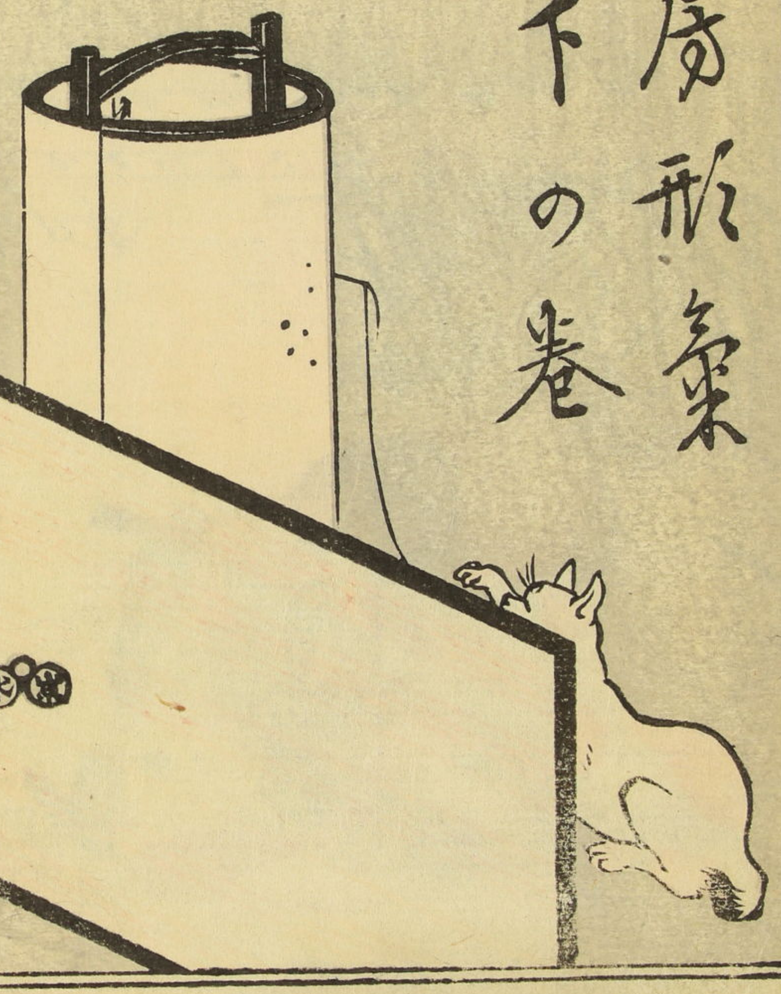
京山作
豊國画

Gôkan:(
Oshie-Gu
Book 1B-
Part 1
へ13
3703
1

殺草女房形象
初編上下
京山作
豊國画
弘化二年春
錦榜堂寿梓
初作

門へ13
號3703
巻 1

女房形容
下の巻



東京市立中央図書館蔵

おとこもまたこれをやさしくうるはしくてりのしるしとする
ものなりしかるにこのごろ人のをしへたる草の
ものいとうるはしくかつ
山東京尾

織心
耕筆

弘化二年
己巳夏稿本

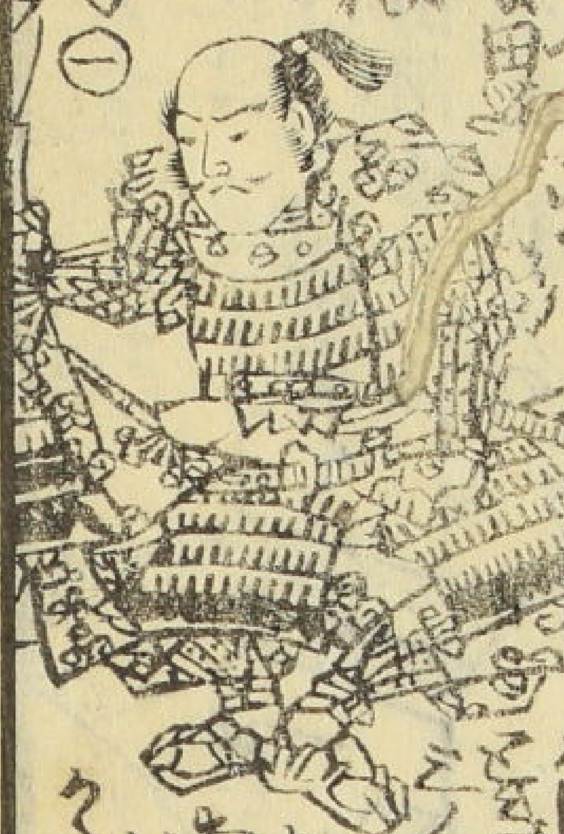
弘化二年春新板

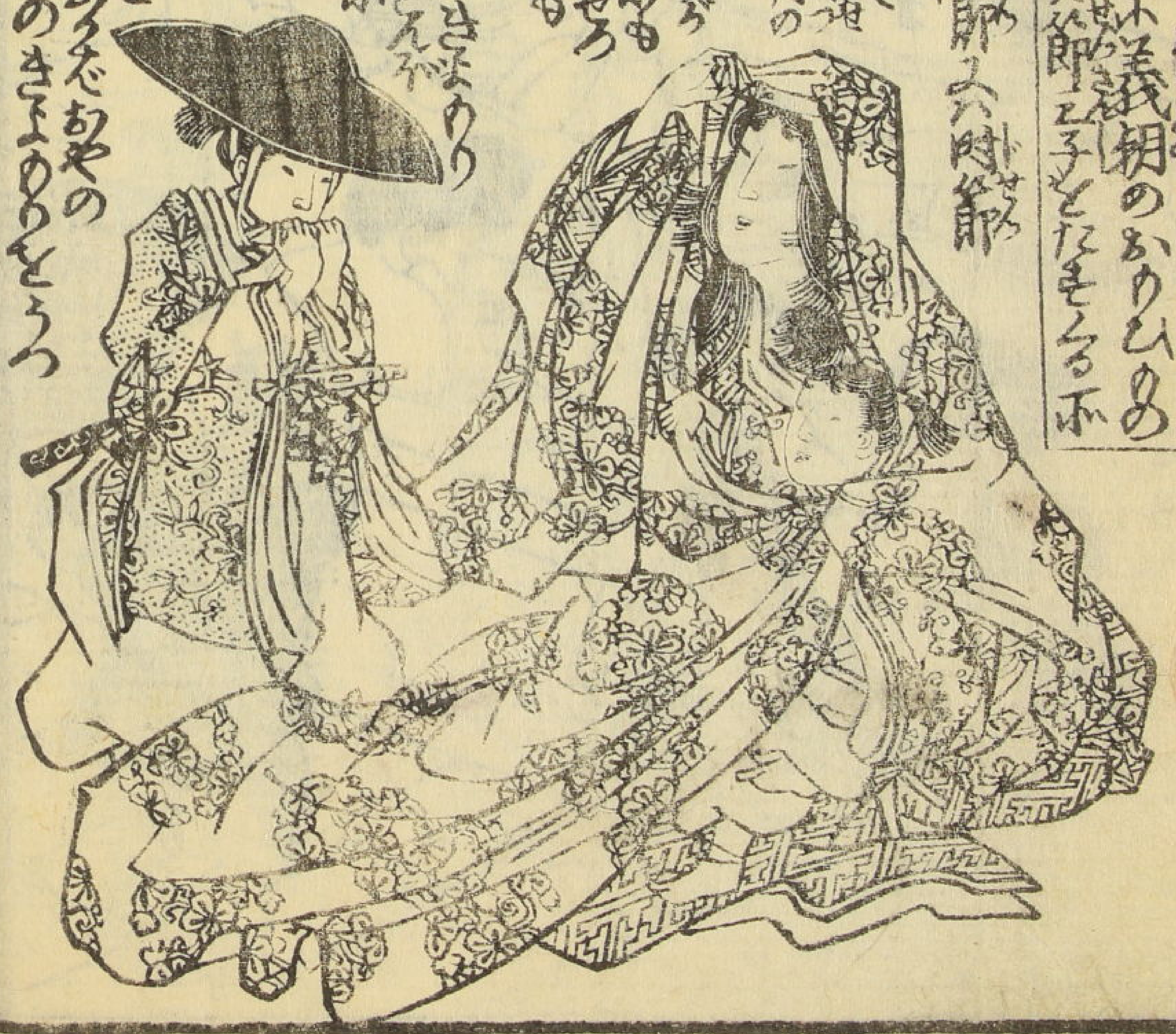
○摂津国有馬郡山口の庄ハ温泉在り
これを有馬の湯とそのの名諸
国ハさこえ云名湯なり
そもく此湯へ今をゝよそ千
二百九十余年のむかし 欽明
天皇二年此湯始て湧出帝
行幸あるゝ孝徳大臣行
幸あり しとゝ日本紀ハ
又千載集ハ
あり 湯屋河院 孝徳元
年洪水山を崩
れ九十五年の
後皇極院の
御時建久二年大和四古
此の湯ハ西ハ
ハ参詣の権現の
夢ハ
有
馬ハ
温泉を浚ひて

再興あるよりのち
天平十七年
聖武
天皇ハ入湯あり
行形山阿弥
陀堂ゑどつ利久の
古跡
本朝ハ冠
湯と
ことあり移く世の
あるハ
ハ此湯のことあるとバ
温泉の起原を
ハ

平治の乱に義朝のおもひもの常盤が貞節三子をたもつる事

○ふるきがくもんはなけれどもむかしよりのをしへあり
たる女をみさをありけりつれどのといおもひけるをひける
ぞ「有りし」……わかくしてしなつ節を六時節
がくるなどいはれてあれど孔節忠節
貞節節ありとの節など六のことぞ
とのほかにもとよむ節は三つのうち竹の
ござりますあいくさまりけるほど節の
ふかよき文字あそれをあらわす
あるこがあいちり竹をもつて……
言されれ義ゆも忠義ゆも貞義ゆも
みがありてつくをされ節忠せつてのせつ
とのあるむかし平治のみだれのよしなる
きよもりにとらへられ
うしなはんとしけるに
まさそのをりふし
程なく……
けらいの……
がたゆふ
ところされ
しなよし
さもの
てうけ
ときはも㊀
ところきよもりにこしはかまえんがあけがたにてときはは三人の子をたもちけるおやのきよもりをうつ

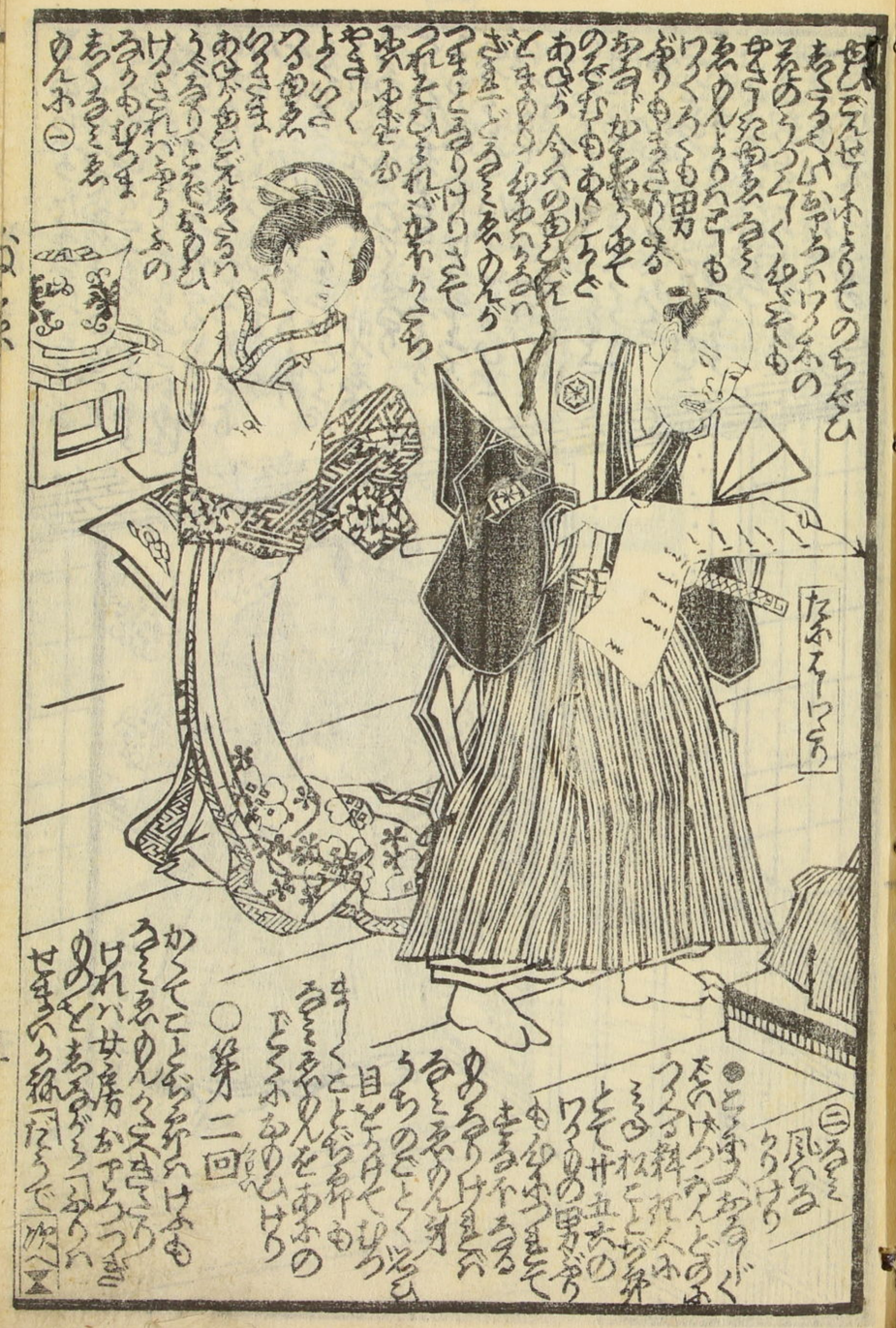


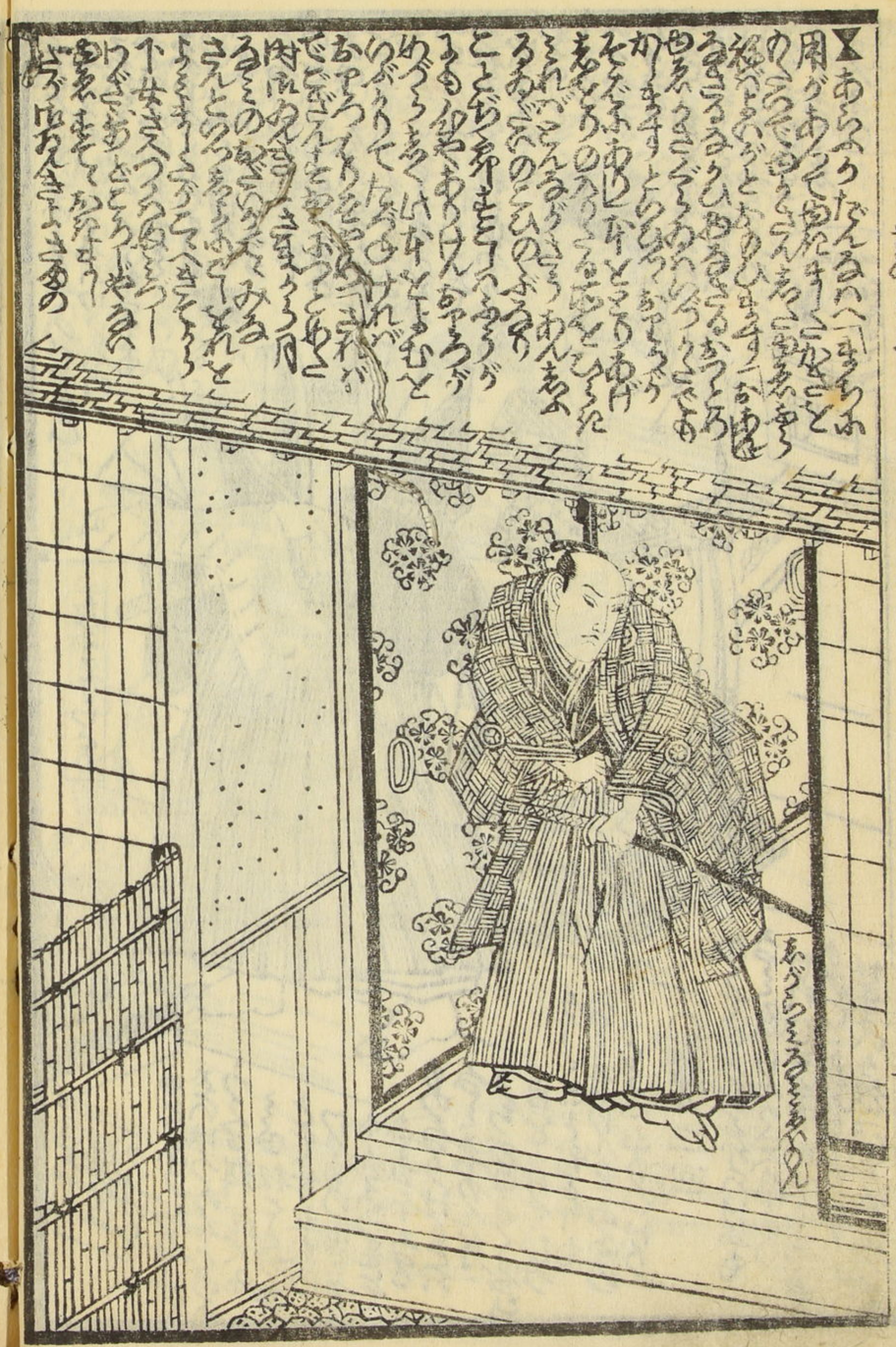


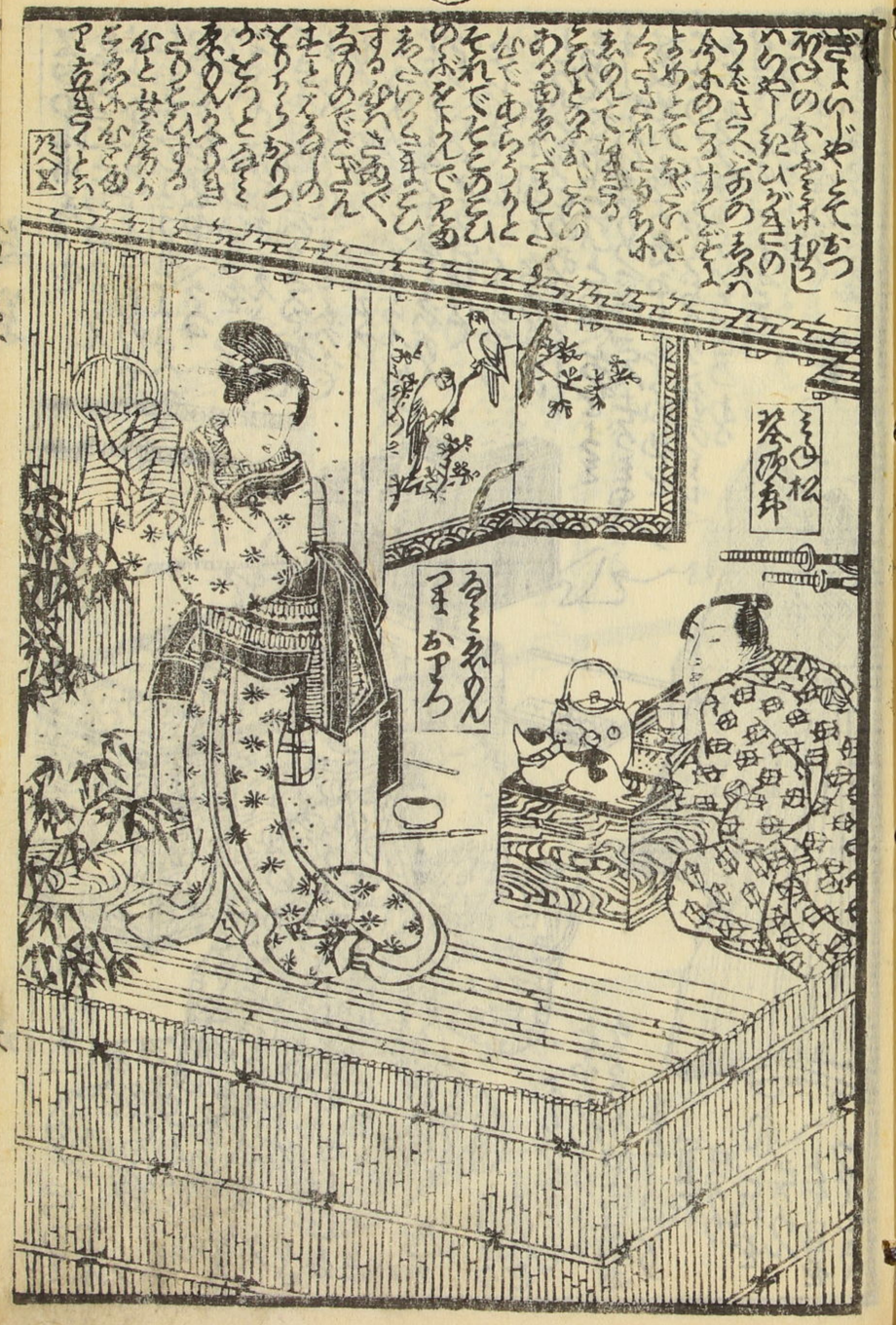
楠三代目正儀忠節之一事

身もあやうしそのみさをを失ひがたくて
きよもりにしたがひさるむかへ人のきの命たすかり
そうしてそのうちよりしもよりつねのりよりちへまいる
あはせて平家をやぶらん
ちゝやよしともをそろへて
をさ田あそとものけどりて
うらをとむひらるも母の
こゝろはかきまをゆまでて
みさをを立てし貞節のこと
ことと貞節いはれけりおほきにとらへ
くすのき三代南朝の天子に
まさのり建武のたてまつり
忠をつくしてまさしげの孫正儀
の時たくらちまさのりとこでひる
まさのりがのきとよき日を見て
つげんとそ天下の侍をとらひと
あるみさをまつろ国々を
あやうのんをゆきてやらふをまきさあり
やけられけるとみ三代よくのたぬかなくさ
をうさぶ天下ともにをくらべしとてつくしの
侍とまさをり南朝のみかどのおきます
よしのへつましまされるをそへしそ
侍とあひえあちける
とま忠の節なるなり

発端
ことぶき弟


たふとそうにうけり





○第四回

○第五回

京山作
豐國画

第六回

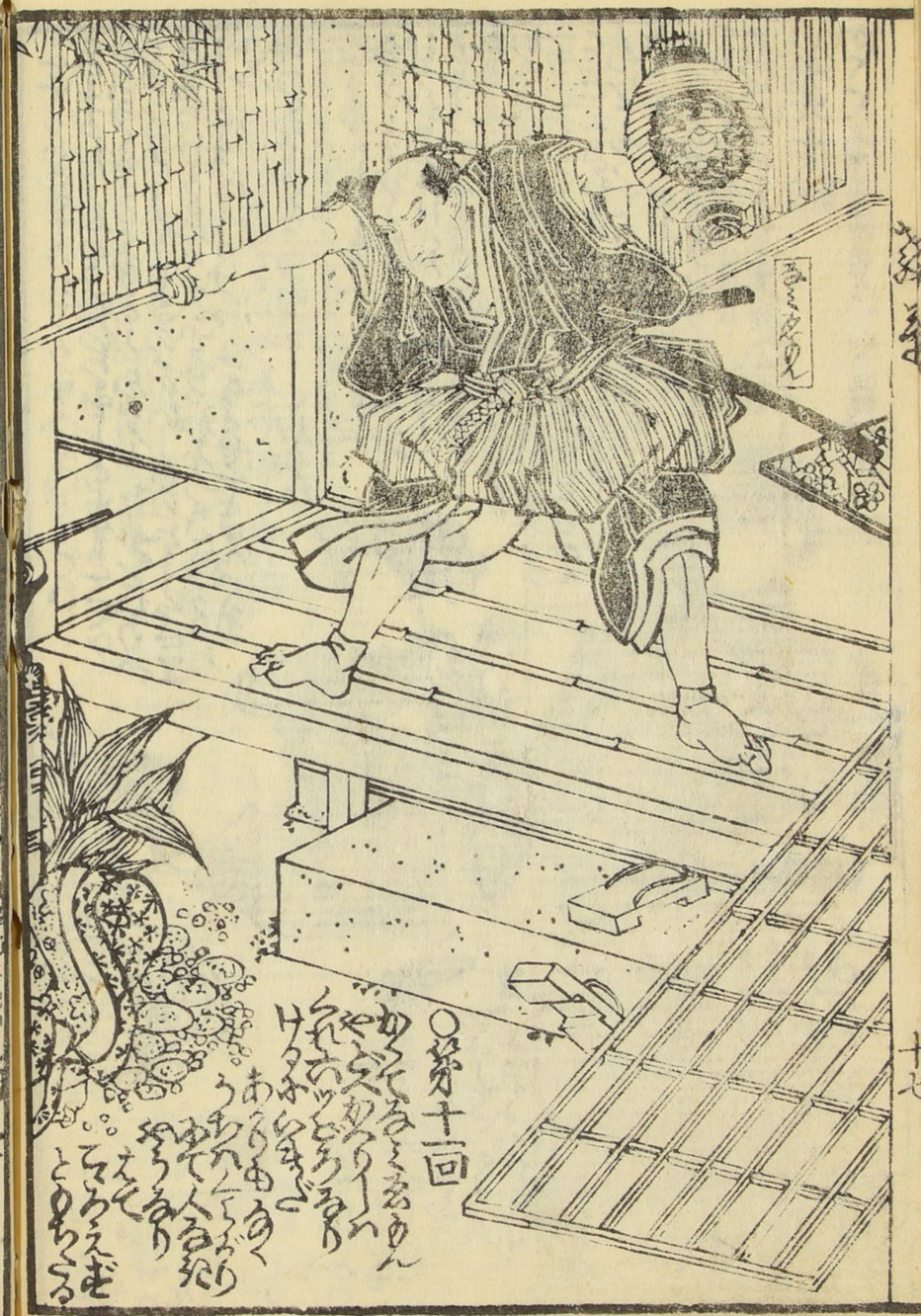
まくら

まくら

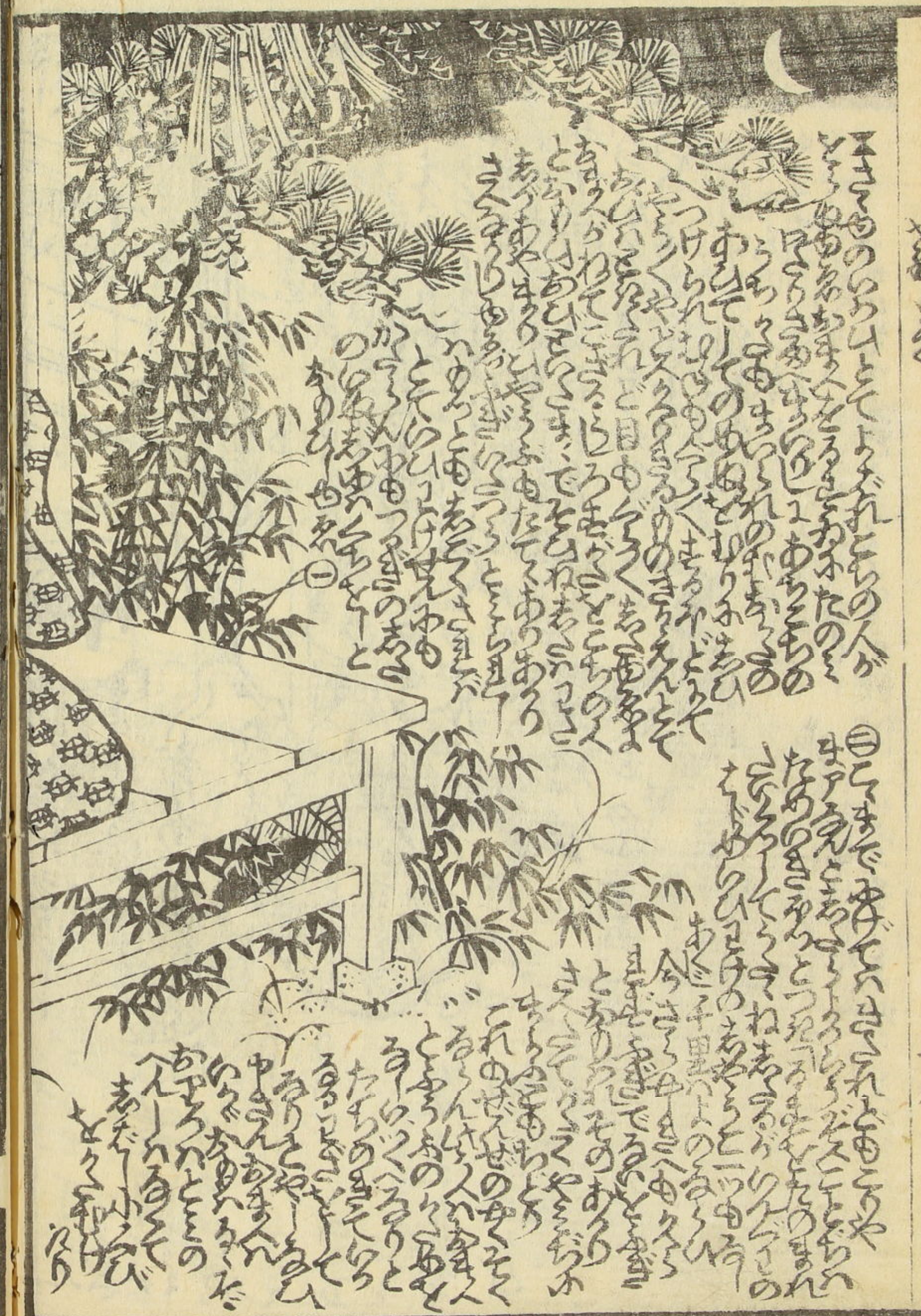
本文
○第七回
その二
まぐろ

○第八回

かりの



○第十二回



その二
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二回

弘化四年丁未春新板目録

教草女房形氣 初編 上下 山東菴京山作 歌川豊國画

同二編 同作 同画 初編のあらまし浪花の女房おつろとお松琴の弟とあくまもうとろけ〜〜ねの花もめとなりしかりまものゆくゑふあくまもうのあるとるるとそこへへんとまた

同三編 同作 同画 此こへんハ母子州とよめるものとそこへん州ようそ分まあるとりまにのるふにてぐ〜〜ありてお女中方のたくるる女房たる女房のこちらとあるせり

同四編 同作 同画 此四へんハこべんようつぐく下女のおいるぐ〜月のるり女房ふるる有るりぐ〜吉の姉のおふぐ〜わろだくこめんるる時をつるるりまりめとあるせり

人情教訓 蕗塚物語 初編 京山作 上下 豊國画 つづき 出板仕

父雙言宇都宮譚 初編上下 傀儡子作 二編上下 歌川芳虎画

東都地本屋中橋廣小路錦橋堂山田屋庄兵衛板